経済環境常任委員会報告資料①

八代港・熊本港ポートセールスビジョンの改訂について

令和６年（2024 年）１０月

企業立地課

１　目的

・　八代港ポートセールス協議会、熊本港ポートセールス協議会及び熊本県では、両港の国際的な物流の拠点性を高め、交流の拡大と地域経済の発展等を目指し、ポートセールスの方向性や取組内容、達成目標等を関係者間で共有した上で連携しながら、戦略的に取り組むため、これまで両港における「ポートセールスビジョン」をそれぞれ策定しています。

・　既に令和元年度の前ビジョン策定から５年が経過しており、また、ＴＳＭＣ(台湾積体電路製造)の熊本進出や世界的な脱炭素化、物流の２０２４年問題等、大きな社会情勢の変化があり、ビジョンを通してそれらの課題等への適切な対応を迫られています。

・　そのため、令和元年度から５年度までのポートセールス活動や目標達成状況などの実績を踏まえ、次期計画から熊本市及び八代市も主体に加わり、今後５年間(令和６年度～１０年度)の目標や取組方針を設定した新たなビジョンを策定します。なお、本ビジョン期間内であっても、目標達成状況や社会情勢の変化等により必要に応じて、適宜、改正等を行うこととします。

２　主体

（１）八代港

県、八代市、八代港ポートセールス協議会

（２）熊本港

県、熊本市、熊本港ポートセールス協議会

３　改訂時期

令和６年（２０２４年）１０月（予定）

※参考（これまでの経過と今後の予定）

～３月中旬	各関係企業、機関の意見集約（１回目）
～５月末	素案作成（従来、５月及び６月の両港ポートセールス協議会総会で素案の議決を得るが、課として、関係機関の意見を聴くなどし、更なる内容の充実を図るべきとの判断に至り、素案の提示に留めている。）
５月末	熊本港ポートセールス協議会幹事会・総会等での素案提示
６月中旬	八代港ポートセールス協議会理事会・総会等での素案提示
～７月中旬	全国輸出入コンテナ貨物流動調査データ等反映作業
～７月下旬	各関係企業、機関の意見集約（２回目）
９月上旬	各理事・幹事、関係企業、関係機関へのビジョン（案）提示
10月１日	常任委員会報告（９月議会）

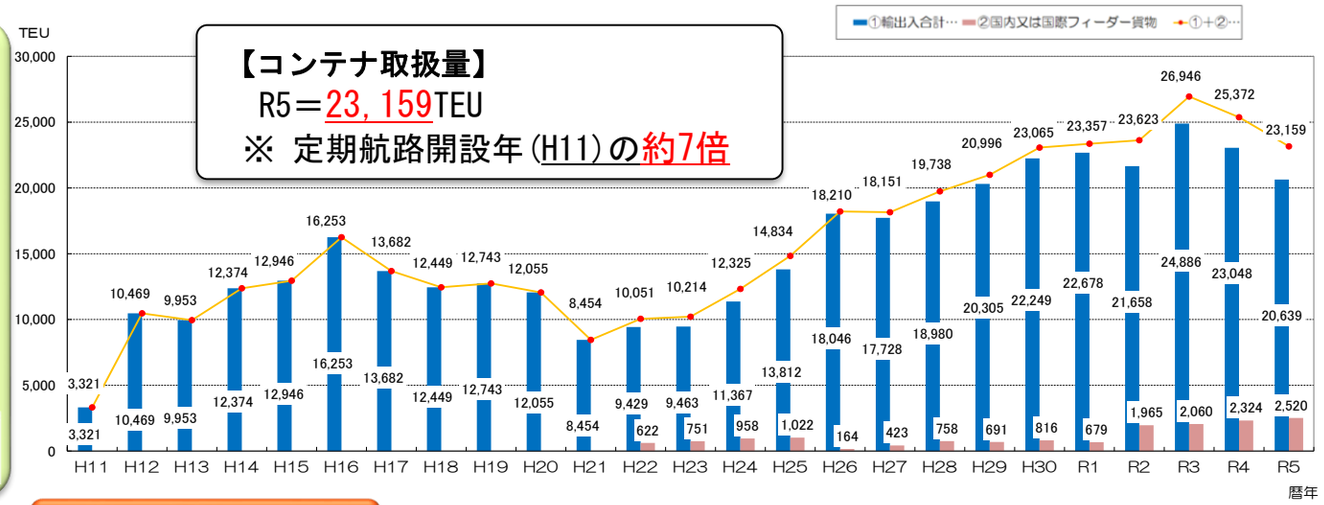
八代港ポートセールスビジョン（概要）

令和6年（2024年）年10月
八代港ポートセールス協議会、熊本県、八代市

八代港の概要

◆地理的要素：**地理的な優位性**
韓国（釜山）約300km，中国（上海）約900km，台湾（基隆）約1，200km
東京約900km，福岡約120km
九州自動道及び南九州西回り自動車道の八代ICや国道3号、
八代港線をはじめ、九州新幹線駅やJR八代駅等が10km圏域
九州内の主要都市までの良アクセス

◆主な港湾スペック
-12m岸壁（第一バース）、コンテナ蔵置能力2，442TEU
ガントリークレーン2基、ストラドルキャリア3台
リーファコンセント48口



【コンテナ取扱量】
R5＝23，159TEU
※ 定期航路開設年（H11）の約7倍

現状と課題

航路

＜国際コンテナ定期航路＞ 釜山港、週２便		
釜山港	高麗海運株式会社（韓国）	火曜運航
	長錦商船（韓国）	木曜運航
台湾各港	愛媛オーシャン・ライン株式会社	月曜運航
＜国際フィーダーコンテナ定期航路＞神戸港、週１便		
神戸港	ＯＯＣＬ（香港）	土曜運航

※令和６年８月末に台湾航路のダブルコールが休止されている

貨物集貨

- 長年のポートセールスによるコンテナ取扱量が増加している一方、R4以降は**コロナ禍の物流混乱、中国経済の停滞による取扱量の減**
- 航路、便数の少なさ、高い船賃等の**航路サービスと企業ニーズとの不一致**

港湾機能

- 八代外港工業用地が分譲完了し**新たな事業用地が不足**
- 木材需要の増加に伴う**木材等蔵置土場の不足**
- **CFS※1倉庫**の供用開始（R4.7）後**利用実績が低調**
- **物流手続きの電子化**の推進

環境変化への対応

① **モーダルシフト※2**の推進
② 港湾**脱炭素化**の推進
③ **小口混載貨物の充実**に向けた取組み
④ **TSMCの進出を契機**とした更なる産業の集積への対応
⑤ **クルーズ船寄港**の推進
⑥ **戦略的広報**の展開
⑦ **民間企業や関係行政機関との連携**した取組み

今後の方向性

航路

- ＪＡＳＭ関連の半導体関連材料や建設資材等の台湾からの輸入増を見込み**台湾航路ダブルコール再開**を働きかける
- 原木などの輸出先として荷主企業からの望む声が多い**上海航路の新規就航**をターゲットとする
- **寄港船舶の大型化や増便による港の利便性向上**を図る

貨物集貨

- コンテナ助成事業の活用による**半導体関連企業等の荷主企業**へのポートセールス
- **八代港の地理的優位性を全面に出した積極的な**ポートセールス

港湾機能

- **臨海工業用地の整備**、**－14m航路の着実な整備促進**、八代地域における**県営工業団地の整備**
- **CFS倉庫の利用者の開拓**
- **業務効率化への対応としての電子化**の取組みの推進

環境変化への対応

① **内航船※3の活用**
② 立地企業等の**脱炭素化の着実な取組み**の推進
③ **小口混載需要の掘り起こし**とＣＦＳ倉庫の利活用の促進
④ **高圧ガスの取扱いができるなど**強みを生かした誘致
⑤ **円滑な審査手続き**の推進と**国内外船社への誘致**活動強化
⑥ 熊本港と連携した**ポートセミナー開催等**による認知度向上
⑦ **関係者との連携**による**物流拠点構想具現化の推進**

目　標

本ビジョン推進期間における目標値
R10 目標　30，000 TEU

R5	実績	23，159 TEU
R6	目標	24，000 TEU
R7	目標	25，500 TEU
R8	目標	27，000 TEU
R9	目標	28，500 TEU

◆中長期目標値 ⇒ 40，000TEU

八代港の将来像

○ 南九州から世界に繋がる物流のゲートウェイとして、***企業から選ばれる港***
○ 中国との新規航路を実現し、***世界と繋がる利便性の高い港***
○ 南九州の物流集積に対応できる***機能が充実した港***
○ 大型クルーズ船の受入拠点として、「くまモンポート八代」を中心に***観光客で賑わう港***

※1：小口貨物を混載する施設（コンテナフレートステーション）、※2：トラックでの貨物輸送を環境負荷の小さい船舶の利用へ転換すること、※3：神戸との国内フィーダー航路

熊本港ポートセールスビジョン（概要）

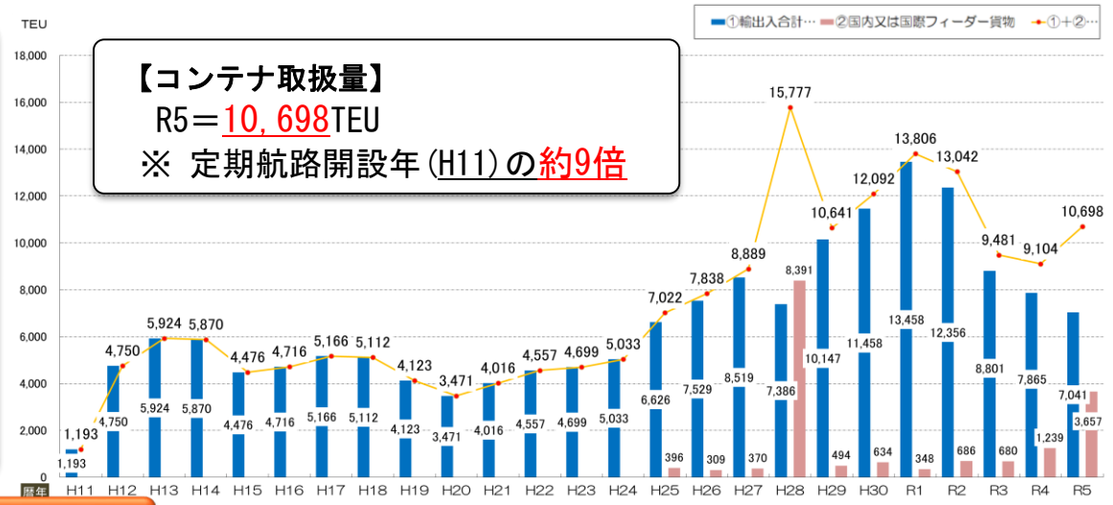
令和6年（2024年）年10月
熊本港ポートセールス協議会、熊本県、熊本市

熊本港の概要

◆地理的要素：地理的な優位性
韓国（釜山）約300km，中国（上海）約900km，台湾（基隆）約1，200km
東京約900km，福岡約90km
九州自動道の益城熊本空港ICや御船IC、国道3号、熊本港と連結し、熊本港線をはじめ九州新幹線駅やJR西熊本駅等が10km圏域
九州内の主要都市までの良アクセス

◆主な港湾スペック
-7.5m岸壁（第一バース）、コンテナ蔵置能力720TEU
ガントリークレーン1基、ストラドルキャリア4台
貨物上屋（3，985㎡）、リーファコンセント12口

※熊本港～島原港間を高速フェリーが就航中
（R5：年間約65万人、車両約22万台）



【コンテナ取扱量】
R5＝10，698TEU
※ 定期航路開設年（H11）の約9倍

現状と課題

航路

＜国際コンテナ定期航路＞ 釜山港、週２便	
高麗海運株式会社（韓国）	火曜運航、木曜休止中
長錦商船（韓国）	火曜運航
＜国際フィーダーコンテナ定期航路＞神戸港、週１便	
ＯＯＣＬ（香港）	土曜運航（R5.4新規就航）
＜旅客定期航路＞ 島原港	
2船社16便／日	

貨物集貨

- 長年のポートセールスによるコンテナ取扱量が増加している一方、R2以降、コロナ禍の物流混乱に伴う大口荷主企業の九州北部港へのシフトによる取扱量の減
- 船賃や便数、リードタイム等の航路サービスと企業ニーズとの不一致

港湾機能

- ガントリークレーン老朽化による代替機能不備
- 船舶の大型化に対する岸壁延長や水深の不足
- 大規模災害に備えた耐震強化岸壁事業化（R5国直轄）
- 物流手続きの電子化の遅れ

環境変化への対応

① モーダルシフト※1の推進
② 港湾脱炭素化の推進
③ コンテナラウンドユース※2に向けた取組み
④ TSMCの進出を契機とした更なる産業の集積への対応
⑤ 道路網による更なるアクセス機能の向上
⑥ クルーズ船寄港の推進
⑦ 戦略的広報の展開
⑧ 民間企業や関係行政機関との連携した取組み

今後の方向性

航路

- 当面は、現在の水深でも受入れ可能で、就航以降堅調に伸びている国際フィーダー航路の増便に向けた取組みの重点化
- 関係者からの要望に応え耐震強化岸壁完成後の上海、台湾航路の新規就航に向けた誘致活動の更なる推進
- 九州北部港を利用している大口荷主のニーズへの対応と船社への粘り強いセールスの実施

貨物集貨

- コンテナ助成事業の活用によるコロナ禍を機に九州北部港へシフトした大口荷主企業や県北に集積している半導体関連の荷主企業へのポートセールス
- 整備中の高規格道路等の新たな交通網や鉄道との連携も視野にしたポートセールス

港湾機能

- ガントリークレーン2基体制による機能強化
- 耐震強化岸壁の早期整備による岸壁延長等の整備とコンテナヤードの段階的拡張、防災拠点性の向上
- 手続き効率化に向けた電子申請の促進

環境変化への対応

① 内航船※3やフェリーの活用、RORO船※4航路の誘致
② 立地企業等との協力による取組みの推進
③ 関係者間の情報共有と調整
④ 第二次分譲地も含めた物流や製造業の企業誘致
⑤ 中九州横断道路、熊本西環状道路等の道路網の整備促進
⑥ ラグジュアリー層が多い欧米のクルーズ船の誘致
⑦ 八代港と連携したポートセミナー開催等による認知度向上
⑧ 関係者との連携による取組みの推進

目　標

本ビジョン推進期間における目標値
R10 目標　18，000 TEU

R5	実績	10，698	TEU
R6	目標	12，800	TEU
R7	目標	14，100	TEU
R8	目標	15，400	TEU
R9	目標	16，700	TEU

◆中長期目標値 ⇒ 25，000TEU

熊本港の将来像

○ 熊本都市圏・県北地域の産業集積を背景とした*物流の拠点港*
○ 中国・台湾等への直行便など、新規航路の誘致による*企業から選ばれる港*
○ 船舶大型化に対応出来る*機能が充実した港*
○ 九州横断の海上交通、クルーズ船の寄港による*人流の拠点港*

※1：トラックでの貨物輸送を環境負荷の小さい船舶の利用へ転換すること、 ※2：輸入コンテナを荷卸後、空コンテナを輸出荷積みに利用すること、※3：神戸との国内フィーダー航路、※4：貨物を積んだトラックや荷台ごと輸送する船舶

経済環境常任委員会報告資料②

次期「ようこそくまもと観光立県推進計画」について

令和 6 年（2024 年）10 月 1 日
観光戦略部　観光企画課

１　計画策定の背景

○　「ようこそくまもと観光立県推進条例」（H20.12.22 施行）第８条に定める、観光立県の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画。

○　当該計画については、昨年度から観光審議会における審議及び庁内での意見照会等を行いながら検討を重ねるとともに、現在策定が進められている県の次期「基本方針」及び「総合戦略」との整合性を図りながら素案の作成を進めているところ。

○　今回策定する計画は５期目（１期目：2008-2011 年度、２期目：2012-2015 年度、３期目：2017-2019 年度、４期目：2021-2023 年度）。

２　計画の概要

前計画では、ＤＸをはじめとする社会の潮流を捉え、新たな観光スタイルをいち早く確立させることにより、新型コロナウイルス感染拡大と豪雨災害で激減した旅行者数の回復を目指した振興策を展開。その結果、２０２３年の観光庁宿泊旅行統計調査による延べ宿泊者数は過去最多の約８４０万人となった。

次期計画では、本県の観光分野における競争力を高めていくため、観光ブランド「くまもと」の確立を推進し、旅行者の満足度を高め、観光消費を促す振興策を展開。

【計画期間】

令和６年度（２０２４年度）～令和９年度（２０２７年度）

【基本目標】

日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”
～地域が輝く、活力に満ちた観光地域づくり～

【数値目標】

観光消費額　等

【基本的な考え方】

- 観光と熊本の強みを掛け合わせた“くまもとらしさ”の探求
- 上質な“トキ”と機会の創出
- 観光産業を柱とした創造的復興の実現

３　計画作成の経緯と今後の予定

令和５年６月２６日	知事から観光審議会へ諮問
令和５年６月～令和６年９月	観光審議会における審議（計５回）
令和６年９月２６日	観光審議会から知事への答申
令和６年１０月１日	経済環境常任委員会での報告
令和６年１０月中旬	パブリックコメント開始（約１カ月間）
令和６年１１月～１２月	パブリックコメント意見反映　→　策定

「ようこそくまもと観光立県推進計画（２０２４年度-２０２７年度）」の概要（案）

基本目標　日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”　～地域が輝く、活力に満ちた観光地域づくり～

計画の位置付け

○ようこそくまもと観光立県条例に基づく、観光立県の実現に関する施策を推進するための基本計画

○現在策定を進めている県の次期「基本方針」及び「総合戦略」に位置付けられる観光振興に関する取組みを具体化したもの

観光を取り巻く現状と課題

○人口減少と少子高齢化の進展
・経済規模縮小への懸念、人手不足の深刻化
→リピーターの獲得による観光客数の安定的な確保、観光消費額の拡大

○旅行形態や価値観の変容
・個人旅行の比率の急上昇、新たなスポットの観光地化
→環境の変化に対応できる体制づくり

○訪日外国人旅行者の急激な回復
・熊本空港国際線の増便、クルーズ船寄港の回復
→インバウンド需要獲得への対応

○デジタル化、ＤＸの浸透
・消費行動の変化、ＩＴ・デジタル化への対応の遅れ
→デジタル化・ＤＸの推進、利便性向上

○持続可能な観光に対する意識の高まり
・世界的な「持続可能な観光」への関心の高まり
→地域や環境と調和した観光地域づくり

推進体制

○県と観光連盟、DMO、観光協会等との役割分担、機能強化

○国や九州観光機構、市町村及び他県との連携

計画の体系

３つの基本方針

1　観光と熊本の強みを掛け合わせた“くまもとらしさ”の探求

・国内外に誇れる熊本の地域資源や産業と観光を掛け合わせ、観光ブランド「くまもと」の確立を推進します。
・熊本が国内外から選ばれ、さらに選ばれ続ける観光地となることを目指します。

2　上質な“トキ”と機会の創出

・“今”“ここ（熊本）”でしか体験できない「トキ消費」を意識した観光地域づくりを目指します。
・観光の上質化・高付加価値化に取り組み、訪れた人の満足度を高め、リピーターの獲得や観光消費を促進します。

3　観光産業を柱とした創造的復興の実現

・度重なる災害とコロナ禍で疲弊した観光産業の再生を支援します。
・コロナ禍で顕在化した多様な価値観等に対応できる足腰の強い観光地域づくりを目指します。
・観光産業の成長が地域経済の活性化に繋がり、観光産業に携わる人が生き生きと輝き、ホスピタリティ精神溢れる観光地域づくりを目指します。

４つの戦略

Ⅰ　観光資源・コンテンツの魅力向上

1　「観光×熊本の強み」で、“くまもとならでは（又はオリジナル）”の特別な体験の提供
2　温泉街（文化）の上質化・ブランド化
3　周遊及び滞在の促進
4　教育旅行の誘致
5　高付加価値商品の開発
6　スポーツツーリズムの推進
7　コンテンツツーリズムの推進

Ⅱ　戦略的なプロモーション

1　効果的な情報発信
2　クルーズ船誘致
3　ＭＩＣＥ誘致の推進
4　観光情報・ＥＣポータルサイトの活用
5　被災地域への誘客促進
6　広域連携によるプロモーション

Ⅲ　受入環境整備

1　多様な旅行者の受入環境整備
2　観光地へのアクセスの充実
3　地域住民の理解と満足度向上

Ⅳ　観光産業基盤強化・活性化

1　人材育成・確保
2　観光産業起業家支援
3　生産性向上やマーケティングにつながるＤＸ導入

持続可能な観光地域づくりの推進　・　観光DXの推進

経済環境常任委員会　報告資料③

新規工業用水道事業の進捗状況について

令和6年(2024年)10月1日

企業局

熊本県企業局
水の恵みを地域の力に

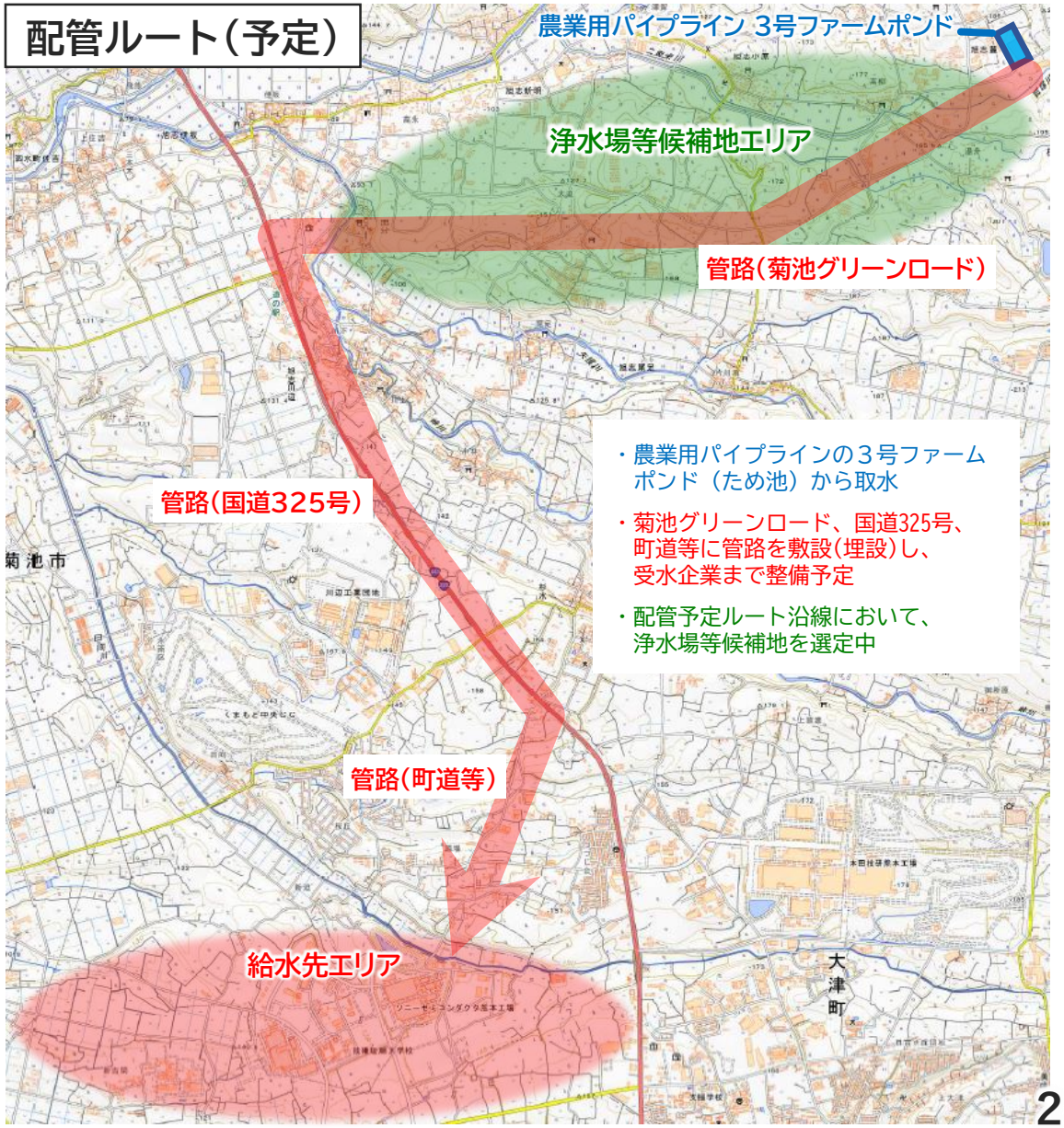
1　整備イメージ

竜門ダム
有明工業用水道
（荒尾市）
（長洲町）
上の原浄水場
白石頭首工
菊池川
新規工業用水道
農業用パイプライン利用
浄水場
パイプラインから分岐
半導体関連企業集積エリア
玉名郡
和水町
山鹿市
菊池市
玉名市
菊池平野
玉東町
北区
合志市
熊本市
菊池郡
大津町
菊陽町

2　整備内容等

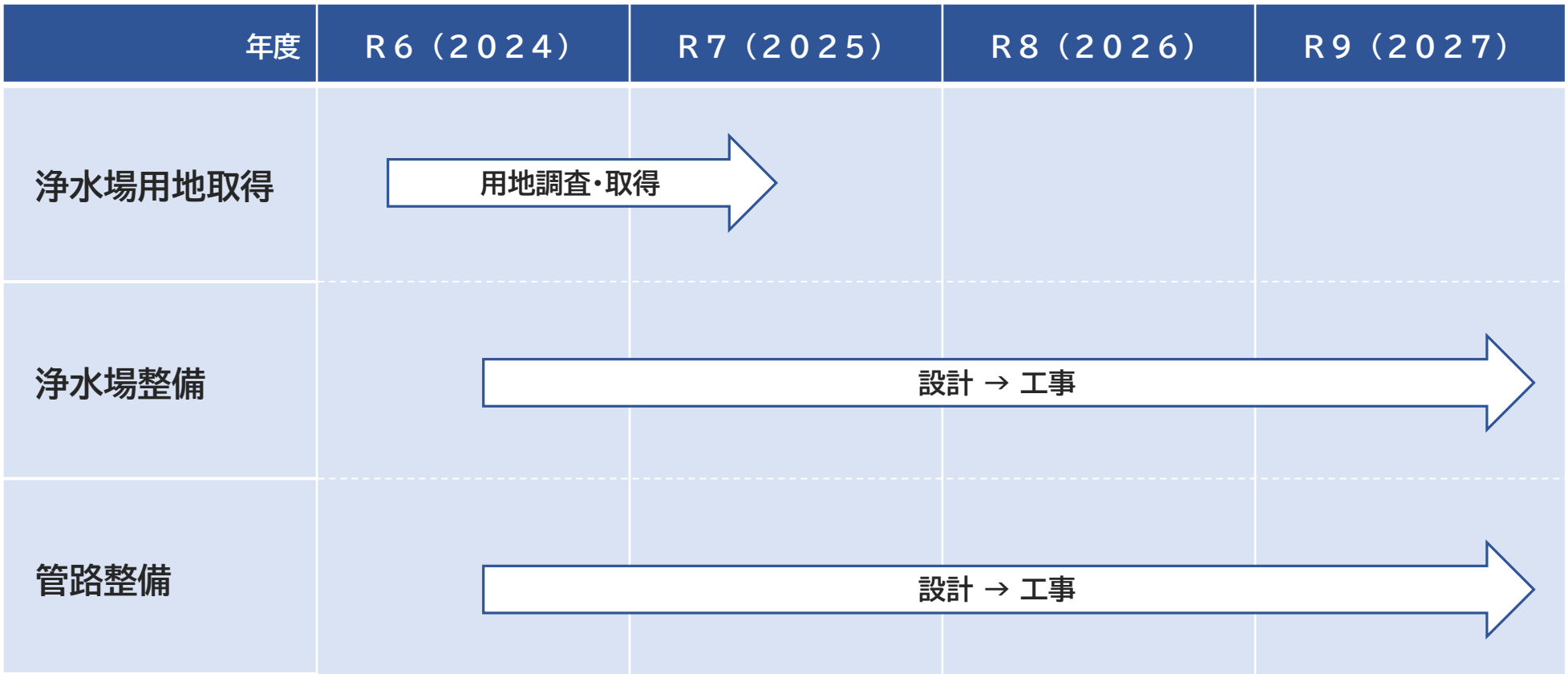
整備内容	
1　事業費	約150億円(うち国費約60億円)
2　給水開始（目標）	令和9年度(2027年度)中
3　主な施設	○浄水場 ・敷地面積 約3ha ○配水池 ・容量 約9万㎥ ○管路 ・延長 約15km ・管径 450mm程度
4　供給水量（想定）	日量最大12,000㎥程度 （当面、日量6,000㎥の送水から始め、段階的に最大量まで引上げ）
5　給水単価	未定

配管ルート(予定)



3　整備スケジュール（予定）

- Ｒ６年(２０２４年)３月　農業用パイプラインの使用に係る土地改良区との合意
- Ｒ６年(２０２４年)８月　浄水場建設等に係る基本設計着手



給水開始目標：Ｒ９年度（２０２７年度）中